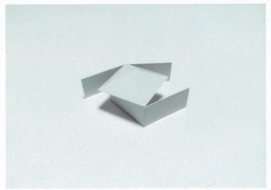
小さな家は、まるで深呼吸をするように両腕を大きく左右に伸ばしているようであり、窮屈な日本の街並みのなかでは自由に見える

東屋のようにふるまう家のふところにはベンチが置かれ、街路の舗装、街灯、街路樹のある余白は、小さな広場となる

開き閉じる壁によって生まれた通り道は、街路の舗装をそのまま奥へと引き込み、その先には庭の草花が顔をのぞかせる



小さな家

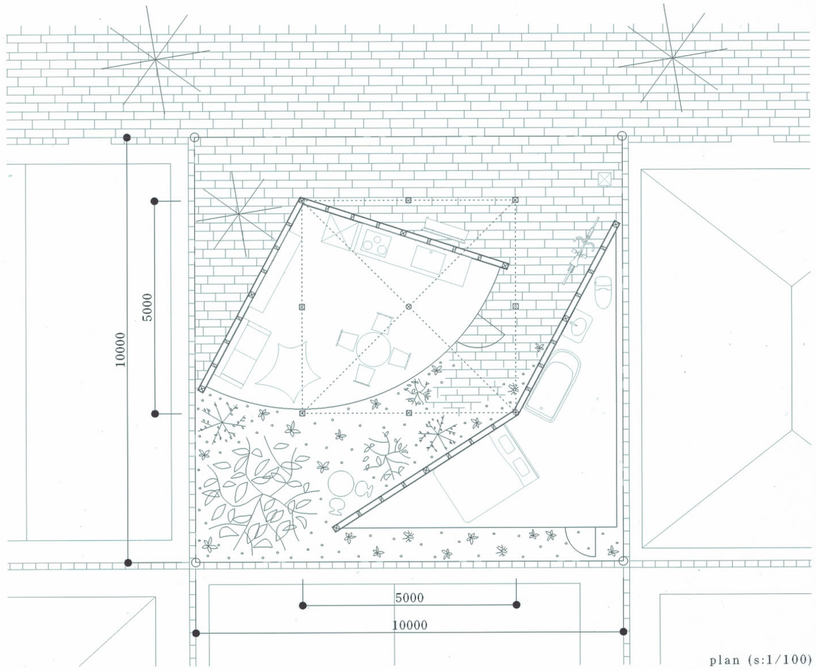
呼吸とは、空気を取り込み体内から吐き出すことを絶えず繰り返し、「生きる」ということ。
暮らしにおけるそれは、街と家との豊かなやりとり、なのではないだろうか。

敷地いっぱいに家を建て周囲へ閉ざすことでかえって息が詰まるような暮らしをしているように思えてならない現代の家。
外部環境を遮断し、快適性という重装備をまとった家の中のみで完結してしまう暮らしは、果たして豊かと言えるのであろうか。

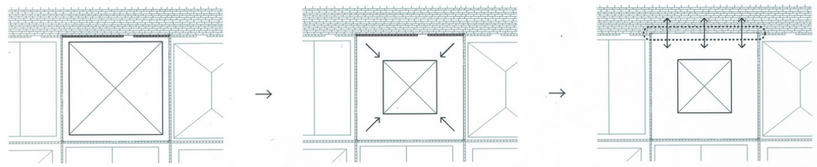
塀が取り払われ、街路から少し奥へ引っ込んだところに佇む小さな家の壁が開き閉じることで、呼吸がはじまる。

アスファルトと土、広場と庭、街路樹と庭木、街灯と部屋の灯り、踏切の音と食卓の音、賑わいと静けさ。
敷地の中をすっと抜ける、街と生活の空気が混じり合う通り道。
敷地内を巡る街と家との空気の循環に寄り添いながら暮らすということ。

奥行きのある行きどまりに、街と家、互いの気配を感じ合う、呼吸する暮らし。
環境のうつろいを絶えず身体で感じとることで生きていると実感できるような豊かさを家に求める。



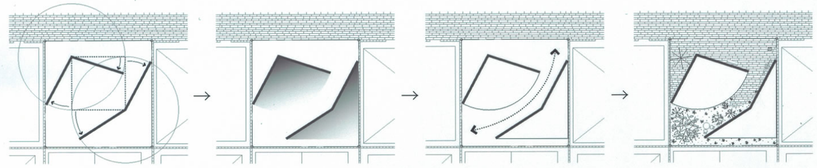
plan (s:1/100)



近代における核家族が暮らす家では、気積を最大限確保するため敷地いっぱいに家を建て、塀で外部を遮断し、家の中で完結する暮らしを豊かさとしていた

人口減少、世帯の縮小、都市に依存する現代的な暮らし等の時代背景に合わせて、家は小さくても十分であると言え、あえて小さく住まうという選択肢を豊かさにつなげる

街と敷地を隔てていた塀を取り払い、敷地内に生まれた余白と街路を地続きにすることで、都市と家に多様な関係性をつくりだすきっかけを与える



相対的に広くなった敷地内で、壁を開いて閉じながら家をかたちづくる

壁に囲われた場所は、影のような領域をつくり、そこを部屋とする

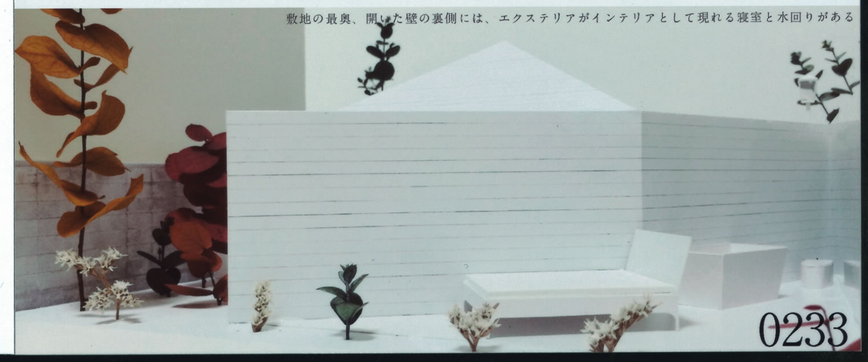
領域の隙間は通り道となり、街と家をゆるやかにつなぐ

通り道は街路の舗装と庭の草花で彩られ、敷地内にはうつろいの空気が巡る

暮らしの様相は、街路から庭へと、光の濃淡の中でゆるやかに移り変わっていく

通り道に沿って弧を描くリビングダイニングは、壁のふるまいに合わせて明るい庭へ開かれる

通り道は、庭からさらに奥へと折れ曲がり、壁と塀の隙間を抜けて寝室へとつながる



敷地の最奥、閉じた壁の裏側には、エクステリアがインテリアとして現れる寝室と水回りがある